

第5章

営業者調査結果と住民調査結果の比較

本章では営業者調査結果と住民調査結果を比較分析する。具体的には、両調査にて同一内容の調査項目である、営業者調査票質問項目 Q25 と住民調査票質問項目 Q1、同じく Q35 と Q2・Q3、Q30 と Q4、Q31 と Q5、Q32 と Q7-1、Q36 と Q11 の6組の質問項目の調査結果を比較分析するものである。第3章の分析ならびに第4章での分析と重なるところもあるが、比較分析ということで展開していくことにする。

第1節

モーテル・ラブホテルの法的規制

営業者調査 Q 25. モーテル・ラブホテルに関する風営適正化法の規制についてどう思いますか。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 どんな場合であっても禁止した方がよい | 2 今のままでよい |
| 3 どんな場合であっても禁止の必要はない | 4 地域を限って禁止した方がよい |

住民調査 Q 1. モーテル・ラブホテルを法律で規制することについてどう思いますか。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 どんな場合であっても禁止した方がよい | 2 今のままでよい |
| 3 どんな場合であっても禁止の必要はない | 4 地域を限って禁止した方がよい |

営業者用の Q25 と一般住民用の Q1 の質問の文言がやや異なるのは、調査対象による表現の違いである。

さて、表 4-1 を見ると、営業者では 71% と、圧倒的に「今のままでよい」と答えている。これに「地域を限って禁止した方がよい」を加えると、85% にもなる。一方住民は、3割の人達が全面的禁止を望んでいる。ただし、「今のままでよい」が 4割で、最も多いし、第4章の第2節の「自由回答」で見たように、「地域を限って限定した方がよい」という回答も、その具体的内容は、住宅地域、文教地域、公共性の強い地域での禁止が大半であり、現行の禁止地域である。それゆえ、7割ほどの人達は、現行通りということになり、営業者ほどではないが、大半を占めている。もちろん、全面禁止の 3割は気になる数値ではあるが。

表 5-1 モーテル・ラブホテルの法的規制について

	(%)	
	営業者	住民
どんな場合であっても禁止した方がよい	3.3	29.4
今のままでよい	71.0	40.4
どんな場合であっても禁止の必要はない	7.8	2.2
地域を限って禁止した方がよい	13.8	27.5
無回答	4.1	0.5

営業者調査 Q 35. あなたは、モーテル・ラブホテル営業が、近隣の住民等に対して迷惑をかけたか、教育的に問題な影響を与えていると思いますか。

- 1 とてもそう思う 2 ややそう思う
3 あまりそう思わない 4 まったくそう思わない

住民調査 Q 2. あなたは付近にモーテル・ラブホテルがあることによって、これまでに何か迷惑を受けたことがありますか。

- 1 はい 2 いいえ 3 付近にはない

住民調査 Q 3. あなたの近くのモーテル・ラブホテルの広告や宣伝で、迷惑を受けたことがありますか。

- 1 はい 2 いいえ 3 付近にはない

営業者用と住民用とは、質問項目も回答項目も異なる。よって完全な比較はできないが、たずねている内容は同じであるので、回答傾向の比較は可能である。

表5-2を見ると、営業者では「とてもそう思う」が2.6%、「ややそう思う」が9.7%で、計12.3%の人が近隣に迷惑をかけていると認識している。そこで、実際に迷惑がかかったと答えている住民の方を見てみると、店舗での迷惑で2.6%、広告での迷惑で4.4%である。

付近にモーテルやラブホテルのない人達を除くと、つまり、付近にモーテルやラブホテルのある人達だけでは、店舗の迷惑で5.9%、広告の迷惑で8.8%である。両者を合計すると14.7%となるが、ともに迷惑のかかっている人もいるので、実際にはこの数値以下となる。よって、営業者の認識はほぼ妥当なところと言えよう。

表5-2 モーテル・ラブホテルの近隣迷惑について

	営業者	住 民	
		店舗の迷惑	広告の迷惑
とてもそう思う	2.6		
ややそう思う	9.7	はい (ある)	2.6
あまりそう思わない	43.1	いいえ (ない)	41.4
まったくそう思わない	38.7		45.8
		付近にはない	55.9
無回答	5.9	無回答	0.1
			49.8
			0.0

営業者調査 Q 30. モーテル・ラブホテル営業の広告規制場所についてどう思いますか。

- 1 どんな場合であっても禁止した方がよい 2 今のままでよい
3 どんな場所であっても禁止の必要はない 4 場所を限って禁止した方がよい

住民調査 Q 4. 風営適正化法では、モーテル・ラブホテルの広告や宣伝について規制していますが、規制についてどのように考えますか。

- 1 全面的に広告・宣伝を禁止した方がよい 2 地域を限って禁止した方がよい
3 全面的に広告・宣伝の規制を解除した方がよい 4 わからない

質問項目の文言の違いは、営業者と一般住民という調査対象を配慮しての違いである。回答項目の違いも、広告規制場所に関して法的に現在どのようになっているか、一般の人はわからないと思いつ削したのであって、これも、調査対象者を配慮した違いである。

表5-3に見るとおり、営業者では、大半が「今のままでよい」と答えている。それに場所の制限の15.6%を加えると、8割となる。場所の制限は、具体的にはその大半が文教地区、公共の場、住宅地域であり、両者にはさほど大きな違いはない。それに比べ全面解除派は15%と、少数派に留まっている。

表5-3 モーテル・ラブホテルの広告場所規制について (%)

	営業者
どんな場合であっても禁止した方がよい	2.2
今のままでよい	63.2
場所を限って禁止した方がよい	15.6
どんな場所であっても禁止の必要はない	14.5
無回答	4.5
	住 民
全面的に広告・宣伝を禁止した方がよい	38.8
地域を限って禁止した方がよい	35.3
全面的に広告・宣伝の規制を解除した方がよい	2.0
わからない	23.4
無回答	0.5

一方、住民の方を見ると、意見は3分されている。全面禁止の人達と地域制限の人達、そして分からないという人達である。「わからない」を除いても、全面禁止およそ40%、地域限定35%と、その差は大差なく、2分化されているという状況である。この広告全面禁止の人達には、表4-1で見た、モーテル・ラブホテルの全面禁止の3割の人達が含んでいるものと思われる。3割の人達は、モーテル・ラブホテルそのものを全面的に禁止すべきという意見であるので、当然広告も全面禁止ということになるわけである。ということは、モーテル・ラブホテル許容でかつ、広告は全面的に禁止というのはおよそ1割ということになる。

第4節

モーテル・ラブホテルの広告表現

それでは、具体的な広告表現それぞれに対しては、どのような見解をもっているのだろうか、そのことをたずねてみた。

営業者調査 Q 31. モーテル・ラブホテル営業の広告表現についてどう思いますか。			
道案内程度の広告	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
はでで人目を引く広告	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
街の景観にそぐわない広告	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
性を連想させるような内容の広告	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
その他	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
住民調査 Q 5. モーテル・ラブホテルの広告表現についてどう思いますか。			
道案内程度の広告	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
	3	わからない	
はでで人目を引く広告	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
	3	わからない	
街の景観にそぐわない広告	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
	3	わからない	
性を連想させるような内容の広告	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
	3	わからない	
その他	1	規制の必要ある	2 規制は必要ない
	3	わからない	

Q5で「わからない」を入れたのは、今までと同様、調査対象者である一般住民への配慮である。さて、「はでで人目を引く広告」「街の景観にそぐわない広告」「性を連想させるような内容の広告」に対しては、営業者も住民も大半は「規制の必要ある」と答えている。3項目ともに、住民の方が営業者よりも10%ほど比率が上回っているものの、規制の必要あり、ということでは、共通の認識をもっていると言えよう。

「道案内程度の広告」では、営業者では8割という高い比率で規制必要なしと答えているが、住民では、規制必要なしが半数近くを占めるものの、規制必要ありとする人達も3割ほどいる。ただし、表5-3で見た広告全面禁止の比率よりも低い。ということは、要するに、全面禁止といえどもその人達のなかには、派手ではない、そして嫌しくない道案内程度ならよい、と見なす人達も含まれている、ということであろう。

表5-4 モーテル・ラブホテルの広告表現について

(%)

	規制の必要ある		規制は必要ない		わからない 住民	無回答	
	営業者	住民	営業者	住民		営業者	住民
道案内程度の広告	12.6	31.0	78.8	48.2	20.0	8.6	0.8
はでで人目を引く広告	66.5	78.8	16.7	7.2	13.0	16.7	0.9
街の景観にそぐわない広告	71.0	83.2	10.8	4.6	11.5	18.2	0.7
性を連想させるような内容の広告	73.4	84.5	6.3	3.2	11.8	19.3	0.5
その他	3.7	1.6	0.4	0.0	0.0	95.9	98.4

第5節

モーテル・ラブホテルでの事件

営業者調査 Q 32. あなたのホテルで以下のような事件が起こったことはありますか。

住民調査 Q 7-1. あなたの近くのモーテル・ラブホテルで以下のような事件が起きたことはありますか。

殺人、強盗、傷害などの事件	1	あ	る	2	な	い
強姦、強制わいせつなどの事件	1	あ	る	2	な	い
売春（18歳以上によるもの）	1	あ	る	2	な	い
18歳未満の援助交際、児童買春	1	あ	る	2	な	い
覚せい剤、シンナーなどの薬物事件	1	あ	る	2	な	い
家出少年少女の出入り	1	あ	る	2	な	い
18歳未満の少年少女の出入り	1	あ	る	2	な	い
その他の事件	1	あ	る	2	な	い

表5-5に見るとおり、当然のことであろうが、住民の見聞よりも営業者の認知の方が多い。特に多いのが、「覚せい剤、シンナーなどの薬物事件」である。4店舗につき1店舗の割で、あったと答えている。「18歳未満の少年少女の出入り」が次いで多く、12%であるが、近年の青少年の性状況を思うに、営業者が気付かないだけで、実際にはもっと高い数値なのではないだろうか。

表5-5 モーテル・ラブホテルでの事件について

	（%）	
	営業者「ある」	住民「ある」
殺人、強盗、傷害などの事件	3.0	3.2
強姦、強制わいせつなどの事件	6.3	1.0
売春（18歳以上によるもの）	4.5	1.6
18歳未満の援助交際、児童買春	9.3	1.8
覚せい剤、シンナーなどの薬物事件	25.3	1.4
家出少年少女の出入り	3.7	1.2
18歳未満の少年少女の出入り	11.9	2.2
その他の事件	7.4	0.4

営業者調査Q36、住民調査Q11ともに

あなたは、モーテル・ラブホテルと高級シティホテルとを比べてみて、次のことをどう思いますか。

性的行為に利用されていること

- | | |
|-------------------|---------|
| 1 モーテル・ラブホテルの方が多い | 2 同じくらい |
| 3 高級シティホテルの方が多い | 4 わからない |

不倫に利用されていること

- | | |
|-------------------|---------|
| 1 モーテル・ラブホテルの方が多い | 2 同じくらい |
| 3 高級シティホテルの方が多い | 4 わからない |

売春や援助交際に利用されていること

- | | |
|-------------------|---------|
| 1 モーテル・ラブホテルの方が多い | 2 同じくらい |
| 3 高級シティホテルの方が多い | 4 わからない |

ここでの質問は、モーテル・ラブホテルという性的行為をする場という認識・イメージがつかまとい、高級シティホテルという宿泊やお食事をする場という認識・イメージであるが、果たしてこうした認識ないしイメージでモーテル・ラブホテルの営業者や今の人達は捉えているのだろうか、もしかすると以前につくられた認識・イメージにしか過ぎないのではないか、ということを見ていくものである。

まず、「性的行為に利用されていること」では、半数の住民が「モーテル・ラブホテルの方が多い」と答えている。ただし、「同じくらい」「高級シティホテルの方が多い」を合わせると17%ほどいる。決して少ない数ではない。なお、3人に1人は「わからない」と答えており、答えづらい質問だったようだ。営業者も「モーテル・ラブホテルの方が多い」が43%と、最も多いが、「同じくらい」が36.1%、「高級シティホテルの方が多い」が2.6%で、合計39%と、ほぼ半々である。

こうしてみると、営業者は、ラブホテルは性的でシティホテルは非性的、ラブホテルは淫らで、シティホテルは上品、といった認識・イメージでは決してない、ということがわかる。

次の「不倫に利用されていること」を見ると、営業者では、「同じくらい」が最も多く、35%となっている。「モーテル・ラブホテルの方が多い」が26%、「高級シティホテルの方が多い」が14%と、前者の方が多いものの、「同じくらい」と「高級シティホテルの方が多い」を合わせるとほぼ50パーセントとなる。ただ単なる性的行為よりも不倫という問題の多い特殊な性的行為の方が、高級シティホテルと答えている比率が多くなっているのである。

住民では、ここでも「わからない」という回答が多いが、それを除くと、「モーテル・ラブホテルの方が多い」が30%、「同じくらい」が24%、「高級シティホテルの方が多い」が7%となる。同じくらいと高級シティホテルを合わせると31%である。一般の人達であっても、ただ単なる性的行為以上に、不倫という性的行為では高級シティホテルが多くなっている。3人に1人は、淫らな関係は高級シティホテルでも多いになされている、という認識・イメージをもっている、ということである。

表5-6 モーター・ラブホテルと高級シティホテルについて (%)

	営業者	住 民
性的行為に利用されていること		
モーター・ラブホテルの方が多い	43.3	50.8
同じくらい	36.1	15.7
高級シティホテルの方が多い	2.6	0.9
わからない	12.6	32.9
無回答	4.8	0.1
不倫に利用されていること		
モーター・ラブホテルの方が多い	26.4	29.9
同じくらい	34.6	23.6
高級シティホテルの方が多い	14.1	7.0
わからない	17.8	39.5
無回答	7.1	0.1
売春や援助交際に利用されていること		
モーター・ラブホテルの方が多い	17.5	39.1
同じくらい	24.2	18.6
高級シティホテルの方が多い	10.0	2.7
わからない	41.3	39.5
無回答	7.1	0.1

最後の「売春や援助交際に利用されていること」を見てみよう。ここでは住民だけでなく営業者も「わからない」という回答が多い。答えづらいということと、答えることにちゅうちょした、ということも重なっているのではないだろうか。「わからない」と「無回答」の人達を除いた、およそ半数の人達の回答を見ると、モーター・ラブホテルの方が高級シティホテルよりは多いものの、「同じくらい」を真ん中に、ほぼ山形の分布ができている。つまり、売春や援助交際は、モーターやラブホテルでも行われているが、それと同じくらいに高級シティホテルでも行われている、という認識である。

一般住民では、39%と、モーター・ラブホテルの方が多い。しかし、「同じくらい」と「高級シティホテルの方が多い」を合わせれば21%となり、この数値もかなり高い。また、不倫ほどではないが、普通の性的行為から比べると、高級シティホテルでも行われているという認識は高い。となれば、モーター・ラブホテルでのお客のチェックと同程度のチェックがシティホテルにおいても必要ということになるのではないだろうか。